

1804 (文化元) 年、ロシアの使節レザノフは長崎に来航して通商を求めたが、翌年幕府はこれを拒絶した。次の文章は、この時レザノフに読み聞かせた申渡しの最初の部分である。これを参考として、鎖国下の対外関係について 5 行以内で説明せよ。

東大の日本史で与えられる史料は、ほとんど現代語訳されている。これは数少ない例外の出題である。こういう場合、きちんと意味を捉えれば、それだけで答案の大枠ができることが多い。そこで、まず関係すると思われる部分を要約する

我国昔より海外に通問する諸国少なからずといえども、こと便宜にあらざるが故に、厳禁を設く。

我国の商戸 (商人) 外国に往く事をとどめ、 → **日本人の海外渡航を禁止**

外国の賣船 (商船) もまた、もやすく (容易に) 我国に来る事を許さず。しいて来る海舶ありといえども、固く退けていれず。 → **外国船の来航を拒否 (拒絶) してきた。**

ただ唐山 (中国)・朝鮮・琉球・紅毛 (オランダ) の往来することは互市 (貿易) の利を必とするにあらず、 → **通交相手国は、中国・朝鮮・琉球・オランダだけである**

来ることの久しき素より其いわれあるを以てなり。 → **これは貿易の利益のためではなく、昔からの理由 (由緒) があるのだ。**

其国 (ロシア) の如きは、昔よりいまだ曾て信を通ぜし事なし。 → **ロシアのような新しい国と通交を結んだことは今までにもない。**

↓
これで幕府の主張の大枠を描くことができる。

幕府は **日本人の海外渡航を禁止** し、 **外国の貿易船の来航を拒否してきた。** ← **Aブロック**

そして **通交相手国** を **中国・朝鮮・琉球・オランダ** に限定した。 ← **Bブロック**

そしてこの関係を **貿易の利益のためではなく、理由のあること (由緒のあること)** と考え ← **Cブロック**

他国と新たな関係を結ぶ ことを **拒否** した。 ← **Dブロック**

↓
これをもとに、**Aブロックの理由**、**Bブロックの具体的な内容**を書き足すとともに、**Cブロックが言わんとすることを端的に表現する。**